

FIG2022 年大会の概要

1. 2022 年大会開催概要

本会合は 4 年に 1 回開催される大会(Congress)であった。2022 年 9 月 11 日～15 日の日程でポーランド・ワルシャワで会場参加を基本として開催され、一部のセッションが Web でリアルタイム配信（視聴のみ可能）された。会合にはオンライン参加 234 名を含めて 82 カ国から 1049 名の参加登録があった。

2. 会長、副会長選挙

新会長の選挙と 4 名の副会長のうち 2 名の選挙が行われた。任期は 2023–2026 年で、会長には 3 名（オーストラリア、イギリス、トルコから各 1 名）、副会長には 4 名（カナダ、スイス、中国、アメリカから各 1 名）が立候補した。投票は大会期間中にオンラインで実施された。

選挙結果：94 の投票権行使により、

会長には Diane Dumashie（イギリス）



副会長には Daniel Steudler（スイス）



同じく Winnie Shiu（アメリカ推薦だが出身は香港）
が当選した。



3. FIG の会員数（2022 年 10 月）

正会員： 81 カ国、96 会員

学会会員： 79 会員

準会員：43 会員 42 カ国

企業会員：20 会員

4. ロシアのウクライナ侵攻に対する理事会声明（2022 年 JFS 役員会既報）

2022 年 2 月のウクライナへのロシアの侵攻に対して、FIG 理事会はロシアの行為を承認しない旨の声明を発出し、2022 年大会にはロシアからの参加登録を歓迎しないとの告知を行った。

5. SDGs への取り組み（2022 年 JFS 役員会既報）

FIG は持続可能な開発目標(SDGs)への対応として、2019 年からタスクフォースを設置し、取り組みを始めた。各分科会において取り組むべき目標を選択し、どのように貢献するか議論している。

JFS2022 年報告会の概要

(月刊測量 3 月号に記事を掲載)

JFS は 2022 年 11 月 29 日に報告会を開催し、同年 9 月 11 日から 15 日までの日程で開催された FIG2022 年大会の概要と FIG の最近の活動動向を報告した。JFS 報告会は、FIG の会合の概要を会員にお知らせするために年 1 回開催しているが、今回は新型コロナウイルス感染症の状況を勘案し、会場参加とオンライン参加を合わせたハイブリッド方式で実施し、会場 21 名とオンライン 19 名を合わせて 40 名の参加があった。本会における報告は下記のとおりである。

1. 2022 年大会と総会の報告 (報告者: 総幹事 村上真幸)

大会では 67 のセッション (うち、49 の技術セッション) において 370 の講演が行われ、うち、配信が行われたのは 18 の技術セッションと 6 の基調講演セッションであった。18 の技術セッションの多くは土地管理に関連する話題 (土地政策と法制度、都市と農村の関係性、土地所有権など) と教育に関連する話題 (ハイブリッド学習、途上国への教育支援) であった。

総会においては、2023 年～2026 年を任期とする会長 (1 名) と副会長 (4 名のうち 2 名) の選挙が行われ、新体制が決定した。

2. 第 3 分科会 (空間情報の管理) の報告 (報告者: 分科会委員長 平田更一)

本分科会では、三次元地理空間情報、地理空間オープンデータとクラウドソーシング、地理空間解析のユースケース、2020 年代における地理空間データ、地理空間参加型アプローチの各セッションを主催した。

3. 第 5 分科会 (測位と測定) の報告 (報告者: 分科会委員長 (測地部門) 宮原伐娑羅)

本分科会では、国際機関との連携、国際会合への参加、出版物の刊行を通じて技術開発と技術支援を促進している。この 10 年間ほぼ毎年、「実務者のための基準座標系セミナー」を IAG (国際測地学協会)、UN-GGIM-AP (国連アジア太平洋地域地球規模地理空間情報管理) などと共催で行ってきている。

4. 第 5 分科会 (測位と測定) の報告 (報告者: 分科会委員長 (地図部門) 福島芳和)

FIG における三次元地理空間情報 (3D) に関する発表の傾向を分析した。2015 年から 2019 年までの FIG における 3D に関する発表件数を 2019 年に調べたところ、2018 年から増加していた。2020-21 年は新型コロナウイルスの影響があるので、2022 年分を調べるとこの傾向は継続している。

5. 第 7 分科会 (地籍と土地管理) の報告 (報告者: 分科会委員長 海津優)

本分科会に関連する話題には、効率的な土地管理のための枠組みづくり、各国における土地管理システムの進歩、欧州の地域的課題を解決するためのデータ共有と相互協力、欧州域内での土地政策の統合やアルメニアやインドネシアにおける地籍・土地登記のデジタル化への取り組みの紹介があった。

6. 第 11 分科会 (ヤング・サーベイヤーズ・ネットワーク: YSN) の報告 (報告者: 分科会委員長 藤井十章)

熟練測量者と YS との関係性を築いていくことが YSN の目的とされていたが、より現実的な問題にフォーカスして取り組む方向へと向かっている。YS が熟練測量者に、技術的なことから地域に関する課題など様々な問題について相談できるメンターリング制度も始まっている。